

## 古代から中世の差別と被差別者の生き方

### 1 目 標

- (1) 差別意識に大きな影響を与えているケガレ観について理解する。
- (2) 当時の人々は、ケガレ観にとらわれながらも、畏怖の念をもっていたことに気づく。
- (3) ケガレ観が流布していた時代に、ケガレ観や差別と闘った一遍の生き方から、反差別の生き方を学ぶ。
- (4) 差別を受けながらも、文化の発展に寄与した人々がいたことを知り、それらの人々が訴えたことに気づく。

### 2 学習計画 全3時間

- (1) ケガレを畏れた平安時代の人々(1時間)
- (2) 差別と闘った一遍(1時間)
- (3) 日本の伝統文化に貢献した人々(1時間)

### 3 展 開

#### (1) ケガレを畏れた人々

| 主な学習活動  | 留意点   |
|---|---|
| 1 「陰陽道の五行の星」を見て、何か考える。  | <b>資料1 晴明桔梗のついた曆(P95)</b><br>平安貴族たちは陰陽道を信じ、方違え、物忌みなどを行っていたことを伝える。   |
| 2 絵巻物を見て感じたこと・気づいたこと・疑問に思うことを出す。                                  | <b>資料2 春日権現験記縁起絵巻</b><br><b>(巻末資料3)</b><br>絵を見て感じたこと・気づいたこと・疑問に思うことを出させる。                                   |
| 3 なぜまだ生きている人が屋外に放置されたのか考え、当時の人々が死を最も畏れていたことを知る。                   | 病人は死ぬ前に屋外に出されたことを説明する。<br>隣同士で考えさせて、何人かに答えを出させた後に、当時の人々が死を最も畏れていたことを理解させる。                                  |
| 4 死体はどのようにされたのかということについて考えることを通して、当時の人々が、ケガレ観というものにとらわれていたことに気づく。 | 都(平安京)では、あちこちに死体がころがっていたことを説明する。<br>当時、忌み嫌われていたものについての説明と、放置された死体を片づける人々や、それらの人々を統括する「検非違使」という役所があったことを伝える。 |
| 5 死体に触れ、「清め」を行う人々を周りの人はどのように見ていたのか想像する。                           | 発表のあと、当時は三穢(死・産・血)を忌み嫌い、ケガレは移ると考えられていたこと、ケガレを払う職業に関わる者を「清め」と呼んでいたことを説明する。                                   |

|   |  |
|---|--|
| <p>6 ケガレた者として見ていた側面と、「キヨメ」という異能力の持ち主として、尊敬していたことに気づく。</p> | <p>「キヨメ」を行う人々に対して、賤視観以外に感じていなかったのか考えさせる。ケガレ観が人々の生活と深く結びつき、ケガレた存在を忌み嫌うと同時に、「キヨメ」という力に対して畏れもいただいていたことを確認する。</p> <p><b>資料3 中世における両義性(P95)</b><br/>忌避感と畏れの意識を持っていたことと、中世における両義性の例として、将軍と河原者の関係について触れる。ケガレ観をめぐる中世の人々の意識を確認する。</p> |
|---|--|

### トピック：陰陽師と被差別民

陰陽師といえば安倍晴明がよく知られているが、安倍晴明は被差別身分の人々の間で、信仰の対象となっている。陰陽師には、宮廷・民間両陰陽師がいた。室町時代頃から陰陽思想が宮廷から民間へ浸透し、河原に住む民間陰陽師のもとには、占いや祈禱を求める人々が集まった。陰陽師の系譜の中には、室町時代頃から「声聞師」と呼ばれ、正月などに民家の門前で芸能などの門付けを行った被差別身分の人々が登場してくる。江戸時代になると陰陽師は、その多くが百姓身分となり、政治的には土御門家（もとは安倍家）の配下にまとめられ一元支配を受けるようになる。

【参考】村上紀夫 「安倍晴明伝説」考 『安倍晴明の虚像と実像』 2003 大阪人権博物館  
田中貴子 「安倍晴明と被差別民」 『安倍晴明の虚像と実像』 2003 大阪人権博物館  
京都部落史研究所編 「京都の部落史1 前近代」 1995 阿吽社



安倍晴明神社（大阪府阿倍野）



一条戻り橋・復元（京都市晴明神社）

安倍晴明が自在に操った式神(晴明が使っていたといわれる神霊や精霊)を封印したとされる橋。

資料1：晴明桔梗のついた暦



阿倍野王子神社 平成15年暦をもとに作成

資料3：中世における両義性（足利義満と河原者）

「七日、大和猿楽児童、（中略）去比より大樹これを寵愛し、同席伝器す。此の如き散楽者は乞食の所行なり。しかるに賞翫して近仕の条、世以これに傾奇の由、財産を出し賜い、物を此児に与うるの人、大樹の所存に叶う。仍て大名等競いてこれを賞賜し、費、宮万に及ぶと云々。比興の事なり。」

京都部落史研究所 「後愚昧記」『京都の部落史3 史料古代中世』 1984 阿吡社 P523

（現代語訳）

7日、足利義満は、大和猿楽の子ども（観阿弥の子となる世阿弥）をいつの頃からか寵愛するようになり、同席させ同じ器を使う。このような雑芸能者は乞食（物乞いのことで、中世では「非人」扱いであった）のやることである。このような者を近くに寄せてほうびを与えるというのは、世の中がおかしくなったようだ。この子に贈り物をするということが足利義満の機嫌を良くすることなので、大名たちも贈り物を競っている。大名たちは贈り物を競っていないながら、「ずいぶん金がかかる」などと嘆いている。しかしこれは理屈に合わないことだな。

## ケガレに関わる資料



「女人結界」の碑（高知県室戸市）



出産のケガレを忌避している碑

（大阪人権博物館所蔵）



女人結界の碑文(拡大)

これらの資料から、ケガレと女性差別の問題とのリンクも考えられる。

(2) 差別と闘った一遍

| 主な学習活動  | 留意点  |
|---|--|
| <p>1 「一遍上人絵伝」を見て、気づいたことや疑問点を出し合う。</p> <p>2 絵巻物の中に描かれている「非人」身分の人々や、その他の被差別民の存在について理解する。</p> <p>3 賤視された人々がなぜ、一遍の臨終の床に集まっていたのかということについて考える。</p> <p>4 入水する「非人」の絵を見て、この人たちにとって一遍はどんな存在であったのかを考える。</p> <p>5 一遍の生き方を通して、自分が考えたこと、感じたことをまとめる。</p> | <p><b>資料3 一遍の臨終の場面(巻末資料10)</b><br/>         気づいたこと、疑問点を出し合わせる。<br/>         パワーポイントを使うことも考えられる。<br/>         絵巻物の中にいる頭に布を巻いた人々に注目させ、考えさせる。<br/>         (プレ-ン・ストーミング的にグループで意見を出し合ってもよい)<br/>         絵巻物の中で、頭に布を巻いた人々など、他とは異なる容姿をしている人々について説明する。<br/>         「キヨメ」を業とする犬神人という賤視されていた人々であることを伝える。<br/>         賤視されていた人々について説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>非人：放免・宿(犬神人)・癩者他<br/>             散所：声聞師 河原者：穢多</p> </div> <p>ケガレ観の強い時代に、臨終に際してなぜ多くの人が集まっているのか考えさせる。</p> <p>一遍の教えについて説明し、平等主義のもと、念仏札を配布したりして、「穢れた」存在を救おうとしていたことを伝える。</p> <p><b>資料4 入水の図(巻末資料P11)</b><br/>         一遍の生き方は、被差別の立場におかれている人々にとっては、大きな救いであったことを確認する。<br/>         ここでは、後追い自殺を美化しないよう配慮をしたい。</p> <p><b>資料5 ワークシート(P98)</b><br/>         現代の差別(「いじめ」)や人権侵害に対して、自分はどのように考え、行動をしているのかということと、生徒の生き方を重ねられるように支援する。</p> |

参考：一遍上人絵伝

一遍上人絵伝は、時宗(鎌倉時代の仏教の一つ)の開祖である一遍の布教の様子を描いた絵巻物です。弟子の聖戒が作ったといわれています。この一遍上人絵伝の特徴は、「乞食」「癩者」「非人」といった人々の姿を生き生きと描いています。また、絵巻物の進行とともに、これらの人々と一遍の距離が縮まっている様子が描かれています。



(3) 日本の伝統文化に貢献した人々

| 学習活動  | 留意点  |
|---|--|
| <p>1 「枯山水」の絵を見る。<br/>どのような人々がこの庭園を造営したのか考える。</p> <p>(1)庭師がなぜ賤視された人々であったのかについて理解する。</p> <p>(2)この当時、どのような仕事に関わっていた人が賤視されたのかについて理解する。</p> <p>2 資料を見て、石庭の製造に関わった人物は自分の名を石に刻んでいるが、どのような思いで名を刻み込んだのか考える。</p> <p>(1)慈照寺の庭を造ったといわれている又四郎の言葉と、石に名前を刻んだ2人の行動から、賤視されていた人々が何を訴えたかったのかについて考える。</p> <p>(2)グループごとに意見をまとめる。</p> <p>(3)グループごとに発表する。</p> <p>3 小太郎・清二郎・又四郎等河原者とされ、賤視された人々の生き方から、何を学んだか、自分の考えをまとめる。</p> | <p><b>資料6 龍安寺の庭(枯山水)</b><br/><b>(巻末資料2)</b></p> <p>河原者と呼ばれ、賤視された身分の人々が作ったといわれていることを説明する。</p> <p>自然に働きかけ変える力を持つ人々を、畏れから「ケガレ」た者として考えていたことを伝える。</p> <p>庭師 = 河原者(穢多)<br/>歌舞伎・石工・井戸掘り・壁塗りなどの仕事に携わる人が賤視されたことを伝える。</p> <p><b>資料7 石に刻み込まれた文字(P100)</b><br/><b>資料8 又四郎の言葉(P4)</b></p> <p>名前を刻み込んだ人々の思いを考察させる。</p> <p>文化に貢献しているにもかかわらず、自分たちを差別する人々に対して、何を伝えたかったのか、グループで考えて発表できるように支援する。</p> <p><b>資料9 ワークシート(P101)</b></p> <p>グループを作り、グループ内で意見をまとめ、ワークシートに記入させる。</p> <p>本時で扱った賤視された人々以外にも、文化の発展に貢献した人を上げ、賤視されながらも優れた技術を身につけていたことを確認する。</p> |

参考：龍安寺の石庭

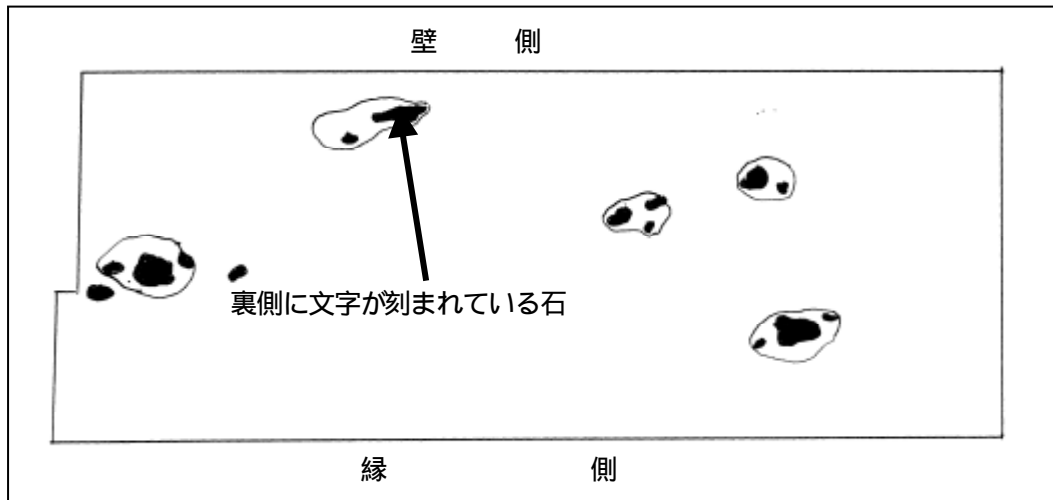
龍安寺は、1450(宝徳2)年に細川勝元が臨濟宗の禅寺として建立します。石庭は枯山水の平庭で、「虎の子渡しの庭」と呼ばれ、大小15の石が配置されています。しかし、どこから見ても14個しか見えないような不思議な配置になっています。15個の石は、虎がわが子を連れて龍に向かっていている様子を表し、白砂は海または大河を表しているといわれています。

資料2：石に刻まれた文字



川島将生 「山水河原者」 京都部落史研究所編  
『中世の民衆と芸能』 1986 阿吽社をもとに作成

文字の刻まれた石の配置



文字の刻まれている石



資料4 ワークシート

ワークシート

賤視されていた人々は何を訴えたかったのだろうか？

あなたの意見

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

友達の見解

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

氏名 [ ]